

**2018 年 1 月から 2023 年 8 月に、
前方循環系主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞の診断で入院加療を受けた方へ
研究実施のお知らせ**

研究の題名：前方循環系主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞における CT perfusion 及び 3D-CT angiography を用いた、閉塞部位以遠末梢側動脈の描出及び閉塞血管長の同定の試み

研究責任者：所属:関東脳神経外科病院 職名：副院長 氏名：仙北谷伸朗

関東脳神経外科病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 29 年 5 月 30 日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的について】

現在、機械的血栓回収療法は脳主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞に対して広く実施されていますが、閉塞血管の再開通までの時間短縮が患者さんの機能予後改善に大きく寄与するとされています。

機械的血栓回収療法前に施行する CT もしくは MR 画像評価にて閉塞した主幹動脈の同定は可能ですが、閉塞以遠の血管走行まで同定することは困難なため、機械的血栓回収療法時には閉塞部以遠の走行が描出されていない状態で、マイクロガイドワイヤーやカテーテルの先端の挙動を頼りに血管内腔をすすめる操作を行なっているのが現状です。頻度は少ないものの、血管穿孔などの致命的合併症のリスクがあるため、血栓回収療法前に、閉塞血管以遠の血管走行や、血栓位置だけでなく血栓長まで把握ができれば、血管穿孔の合併症のリスクを低減でき、また、適切なデバイスの選択が可能となることで、閉塞血管の再開通までの時間をより短縮できる可能性があります。

本研究では、前方循環系主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞における機械的血栓回収療法において、迅速かつ安全に閉塞血管を再開通させるために、治療前 CT perfusion (CTP) 及び 3D-CT angiography (CTA) を用いた閉塞部位以遠末梢側動脈の描出及び閉塞血管長の同定を試み、同定における問題点を明らかにし、今後の機械的血栓回収療法の治療方針に資するデータを提供することで、合併症を低減を図り、治療成績の向上に寄与することを目的としています。

【研究の方法について】

前方循環系主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞症例において、CTP 及び 3D-CTA を用いた閉塞部位以遠末梢側動脈の描出及び閉塞血管長の同定を目的とします。実際に機械的血栓回収療法を施行した症例を対象とし、血栓回収療法時の脳血管撮影所見と術前の 3D-CTA の所見を比較します。CTP 導入前に血栓回収療法を施行した症例と治療成績を比較し、統計学的に解析します。

【利用する情報について】

〈対象となる患者さん〉

2018 年 1 月から 2023 年 8 月に前方循環系主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞の診断で入院加療を受けた方

〈利用する情報・項目〉

情報：診療録情報、手術記録、放射線学的画像

【情報を利用する者の範囲について】

この研究において取得する情報の利用者は、関東脳神経外科病院の研究者のみです。

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までメール又はFAXにてご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

研究責任者 関東脳神経外科病院 副院長 仙北谷伸朗

〒360-0804

埼玉県熊谷市代 1120 関東脳神経外科病院

Tel：048-521-3133